



挨拶運動

学校教育課長 吉田 泉

佐渡市教育委員会では、平成27年度から「ひろげよう あいさつのおもてなし」をキャッチフレーズとした挨拶運動を展開しています。各学校独自の取組を後押し、より活性化させることを目的に、毎月月初めを「あいかつ（挨拶活動）の日」と位置付け、学校教育課職員が学校訪問し、登校時の子どもたちに「おはよう」の声掛けをしています。

これまで多くの学校を訪問していますが、笑顔で挨拶してくれる子どもたちから、いつも元気ももらっています。訪問時の様子ですが、明るく元気に挨拶を返してくれる子ども、恥ずかしそうにうつむき加減に挨拶する子ども、中には、こちらから声がけする前に、遠くから大きな声で挨拶してくれる子どももいます。子どもたちには、それぞれ個性があり、挨拶が苦手な子どももいますが、この運動を通して、佐渡で育つ全ての子どもたちが、自発的に元気よく挨拶できるようになればと願っています。

挨拶運動も3年目となり、その成果も少しずつですが着実に表れてきています。市民の皆様も横断歩道で停車した際、渡り切った子どもたちから「ありがとう」のお辞儀をされた経験があるのではないのでしょうか。

ある小学校での取組ですが、子どもたちと先生が、通勤途中の車両に向かって手を振りながら大きな声で挨拶し、ドライバーもそれに笑顔で返してくれる。正に、あいさつのおもてなしを実践していたあの日の光景が、今でも心に残っています。



Web配信集計システムの活用

下越教育事務所 指導主事 森 和人

今年度見られたWeb配信集計システムの活用例を紹介します。

1 各学校の取組（学力向上推進プランより）

- 誤答傾向の分析と授業場面での指導法を検討。
- 個人ファイルを持たせての意識化。
- 過去問題で、定着具合と躓きを確認。
- 誤答が多かった問題の解説シートを指導書に貼付。
- 授業開始の小テストで、躓きの多い問題の取組。
- サポート問題を使った補充学習。
- 国語・算数共に満点の児童を表彰。
- 縦割り班による学習会。
- 授業の中の問題として教材化。
- 発展問題の取組。

他の授業改善の方策と合わせ、各学校の取組の成果がWeb診断問題の結果として現れてきました。12月の中学校は、全教科全学年で県平均以上となり、3年生の向上傾向が顕著です。小学校は、ほぼ安定して県平均以上を維持しています。引き続き徹底した取組を期待します。

2 数学担当者会議での取組

毎月、数学担当の先生方が集まり、学力向上に向けての会議を行っています。その内容の一つに、今後の授業内容で、Web診断問題の誤答が多かった問題について、躓きの分析と指導法の協議があります。グループ別に分かれ、毎回四つの問題を協議し、共有を図っています。



協議した問題の今年度の結果を確認したところ、現在検証できる中では、8/10の割合で県平均を上回りました。その中の六つは、昨年度県平均を下回っていた問題です。毎回、数学担当の先生方は熱心に協議しています。その成果が授業の中で生かされていると確信しています。

キャリア教育の成果と課題

教育指導主事 本間 辰彦

各学校では、グランドデザインをもとに、郷土愛を軸としたキャリア教育の研究と実践を続けてきました。

小学校では、6年生でみらい'sノートの活用が進みました。研修会では、ノートを5年生からもたせたいという積極的な声が多くありました。中学校では、課題解決型職場体験の拡充を図ってきました。今年度は、相川・金井・畑野・真野各中学校で、延べ44事業所の協力を得て実施しました。島をあげて佐渡の子どもを育てようという意識の広がりが、目に見える形になりました。



また、佐渡高等学校での職業講話支援も、今年で2回目となりました。40名の人々の熱い講話に出会い、生き生きとした表情で返している生徒たちの様子が印象に残りました。

次にトピックスを二つ記します。

一つは、金井小学校における実践が大きく認められたことです。まず、6年生の作文が日本教育新聞のコンクールで優秀な成績を収め、大きく紙面が埋められました。さらに、ノートの活用や子どもも参観日など、キャリア教育の充実が認められ、今年度の文部科学大臣表彰につながりました。佐渡市における今後のキャリア教育の進め方の基準になると受け止めています。

もう一つは、県立教育センター主催の研修会で、保育園・幼稚園から高等学校までの教員が集まり、子どもたちの発達段階に応じた具体的なキャリア教育の有様を学んだことです。

今後も、地道に力強く継続していく所存です。

事故予防=子ども理解

教育指導主事 山岸 善晴

【事故報告数(左列が28年度、右列が29年度)】

| 分類 | 1学期 | 2学期 |
|-----|--------------|--------------|
| 交通 | 4 3 | 7 1 |
| 傷害 | 5 6 | 8 16 |
| 非行 | 3 9 | 12 10 |
| いじめ | 8 8 | 9 14 |
| 疾病 | 5 3 | 1 1 |
| 不審 | 1 3 | 1 4 |
| 虐待 | 3 2 | 3 0 |
| 家出 | 1 0 | 2 2 |
| その他 | 14 11 | 5 15 |
| 合計 | 44 45 | 48 63 |

左表は、市教育委員会に報告のあった事故件数を28年度同時期との比較で表しており、**傷害**といじめの件数が昨年度より増加している特徴を示しています。

いじめについては、物理的に危害を加える例は減少し、陰口や仲間はずしといった、間接的・精神的な危害を加える等、水面下の攻防が増えました。

当然、ネットパトロールのヒット数も激減しており、表面上の見とりが難しくなっています。

このような状況で、家庭からの情報、子どものノートの記述、子どもとの日常会話…等の中に、「ちょっとした変化や言葉じりにいじめのサインを発見し、予防できた。」との報告が増えました。

傷害は、放課後を含む休み時間、授業中等、小中学校のいずれにも平均的に起きています。机が隣同士、実験中、先生のノート点検で並んでいる時…等、報告書からは、偶然というより必然的に起きたと理解できる記述を認めることができます。

元気のよい子が集まって生活している学校は必ずトラブルが起きるのがあたりまえ、無いほうが不思議なくらいだくらいの心構えも必要です。

しかし、我々教師は、**いじめ**でも**傷害**でもアクシデントになる前のインシデントを見逃さないという、安全注意義務を怠ることはできません。即ち、指導案書きの如く、子どもの言動の予知予測を可能にするに**十分な子ども理解**が求められるのです。

佐渡に学ぶ芸能・学習発表会 ～1月21日(日) 於:アミューズメント佐渡～

佐渡市では、「郷土への愛着や誇りをもち、自らの未来を拓く人づくり」を目指し、郷土愛を軸にしたキャリア教育を推進しています。その一環として、今年度も標記発表会が行われました。今回で7回目を迎え、市内2幼稚園、7小学校、2中学校、3高等学校の子どもたちが、芸能や学習の成果を発表しました。その中でも、この3月に閉校を迎える沢根小学校は、全校児童が、学習で学んだ「沢根の宝」や「沢根への思い」を、心を込めて発表しました。

